さぁ、答え合わせをしよう！

第56週目　行ってみよう～和歌山県（わかやまけん）からの出題

※ココを見てね！▶行ってみよう～和歌山県（わかやまけん）

1．和歌山県の地形の説明（せつめい）です。南北に細長く、その面積の大半に、何がありますか？

正解：③紀伊山地（きいさんち）

県の特徴（とくちょう）を読めば、答えはわかりますね。和歌山県（わかやまけん）は、大昔から山深い地域（ちいき）として知られ、1200 年前に弘法大師（こうぼうだいし）・空海（くうかい）が開山（かいざん）した真言密教（しんごんみっきょう）の聖地（せいち）のあるところです。人口は 922,584 人（令和2年10月1日）と、全国で 40 番目の少なさで、県民の約 4 割が和歌山市に住んでいます。ちなみに、白浜海岸（しらはまかいがん）は、「白良浜（しららはま）」ともよばれる、約620mにわたる白砂の美しい浜のことで、和歌山湾（わかやまわん）は、和歌山平野の沿岸部（えんがんぶ）に位置し、紀ノ川（きのかわ）の河口部に広がる湾（わん）のことをいいます。

2．海岸沿いの遺跡の特色として、海の波でけずられてできた崖（がけ）を、墓地として利用した墓を何という？

正解：②海人（あま）の墓（はか）

和歌山県（わかやまけん）には、塩づくりや漁（りょう）をしてくらした人々がのこした遺跡（いせき）が多くみられます。「海人（あま）の墓（はか）」とよばれる墓地（ぼち）は、海の波でけずられてできた崖（がけ）を利用しており、荒々（あらあら）しい自然の中で、その姿を残しています。正解は②です。

3．楠見遺跡の陶質土器は、ある地域との交流を裏（うら）づける資料（しりょう）です。それはどこかな？

正解：①朝鮮半島（ちょうせんはんとう）

「お宝ベスト5」の4つ目に、写真付きで紹介（しょうかい）されています。正解は、①朝鮮半島（ちょうせんはんとう）。日本列島（れっとう）の人々は、大昔から朝鮮半島（ちょうせんはんとう）の人たちと交流（こうりゅう）してきましたが、なかでも伽耶（かや）というクニの人たちと仲（なか）が良く、その影響（えいきょう）を受けてくつられた土器（どき）です。シンプルなだけに、曲線（きょくせん）の美しさが際立（きわだ）っていますね。

4．金色に光り輝（かがや）く「まが玉」が出土（しゅつど）した遺跡（いせき）は、どこかな？

正解：②車駕之古址古墳（しゃかのこしこふん）

全長86メートルの前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）から、国内で唯一（ゆいいつ）とされる金製の「まが玉」が出土（しゅつど）しました。長さ18ミリメートルのまが玉は、紐（ひも）をとおして首飾（くびかざ）りとして使われたようです。金が色褪（いろあ）せないよう適度（てきど）な硬（かた）さで計算されて作られていました。正解は、②車駕之古址古墳（しゃかのこしこふん）。「お宝ベスト5」の1つ目で紹介（しょうかい）されています。

5．岩橋千塚古墳群からは、日本で初めてみつかった埴輪（はにわ）があります。それは、どんな埴輪？

正解：①翼（つばさ）をひろげた鳥

岩橋千塚古墳群（いわせせんづかこふんぐん）は、850基を超（こ）える古墳（こふん）からなります。古墳（こふん）にまつる埴輪（はにわ）もたくさんつくられましたが、他のどこにも例（れい）のない埴輪（はにわ）が見つかったことも、興味（きょうみ）深いですね。正解は、「お宝ベスト5」の5つ目にあります。①翼（つばさ）を広げた鳥の埴輪（はにわ）。また、片方がやさしそうな顔、もう片方がこわい顔をした、両面（りょうめん）に顔をもつ人物埴輪（じんぶつはにわ）も見つかっています。ここでは4世紀末から大量（たいりょう）につくられた古墳（こふん）が、7世紀後半から姿を消してしまいます。どうしてだか、不思議（ふしぎ）ですね。考えてみてください。